

上智大学・ベネッセ英語教育シンポジウム2019

実践研究

「高校の授業におけるスピーキング・ライティング指導を考える」

発表者：長沼 君主（東海大学）

工藤 洋路（玉川大学）

津久井 貴之（お茶の水女子大学附属高等学校）

このセッション（85分）の流れ

1. 本実践研究の背景（工藤）
2. ワークショップ① [Written Interactionの体験]
（進行・解説：工藤）
3. ワークショップ② [Writingに繋がるTeacher-student Interactionの体験]
（教師役：津久井／進行・解説：工藤）
4. 全体解説（長沼）

**主にライティング指導
について考えます**

午前中発表の「調査結果」から

学校の授業や宿題で、あなたが自分の意見や考え、感想などを英語で書く機会はどれくらいありますか？

頻度	割合
ほとんどない	34.1%
月に1~3回	31.2%
週に1~2回	20.9%
週に3~4回	6.4%
週に5~6回以上	1.8%
無回答・不明	5.7%

**書く機会が
少ない！**

午前中発表の「調査結果」から

「英語学習のつまずき」について

技能	とてもあてはまる & まああてはまる	苦手 – 得意
英語の文を 書く のが難しい	77.2%	25.2%
英語を 話す のが難しい	69.4%	22.8%
英語を 聞き取る のが難しい	68.4%	19.8%
教科書の 本文を理解する のが難しい	54.1%	34.5%

**「本文を読んで、（何かを）書く」という
技能統合型の活動の実践は難しい（？）**

ライティング指導における課題

<学習者視点>

- 文が書けない（主語＋動詞が書けない）
- 何を書いてよいか分からない
- どう書いてよいか分からない（単語レベルから文章レベルまで）
- モデルがないと書けない
- モデルがあるとモデルの置き換えになってしまう
- ある程度の分量が書けても、内容的な一貫性や論理性がない文章になってしまう（羅列的な文章になってしまう）
- topic sentence → supporting sentences [first - second - third -] → concluding sentence という構成を過剰に使用してしまう（この型以外を使えない）

<教師視点>

- (本文理解に時間を要するため) 書く活動ができない
- 書かせても、添削が大変
- 和文英訳でも自由作文でも、書くプロセスへの手当てが少ない(プロダクトへの手当てが多くなってしまう)
- 書く前や書く途中の段階での効果的な支援(足場掛け、フィードフォワード)の方法が分からない
- インプットをしている英文とライティングでアウトプットしている英文のテキスト・タイプが異なる
 - ⇒ 教科書本文は説明文タイプが多い
 - ⇒ 生徒が書く英文は意見文タイプが多い
- 授業のメインである「本文」に対して、継続的に、どのようなライティング活動を行ってよいか分からない(技能統合型の言語活動のデザインの方法が難しい)

高校の授業におけるライティング活動

① 「コミュニケーション英語Ⅰ・Ⅱ・Ⅲ」

- 本文内容に関わるライティング活動は？
- summary writingやretellingなどの本文ベースの活動から、本文内容について、自分の考えや意見を書く活動へ
→ 「リソース型」から「リファレンス型」へ

② 「英語表現Ⅰ・Ⅱ」

- 文法シラバスの教科書の効果的な使い方は？
- 使うべき文法事項が明示されている活動から、自分で選択して使う活動へ
→ 「形式規定型」から「形式判断型」へ

「形式規定型」・「形式判断型」…『特定の課題に関する調査（英語：「書くこと」）調査結果（中学校）』（平成24年1月、国立教育政策研究所教育課程研究センター）を参照

このセッションで扱う 2つのライティング

(どんな生徒?)

(Wの指導では何が大切?)

(母語で慣れている)

1文レベルを書く
ことに慣れていない
(習熟していない)
生徒

今の時代のライティング (= 文字媒体でメッセージを発信すること) を考えると、SNS 上での即時のやり取りなど、written interaction は大切

written
interaction
を通して、英語で書くことに慣れる

分量は書けるようになってきているが、つながりやまとまりのある英文を書く力が不足している生徒

高校の主要科目である「コミュニケーション英語」では、本文 (= インプット素材) をどのようにアウトプットへと繋げるかが課題 → 「技能統合型」の言語活動が大切

「R」と「W」を繋げるために教師と生徒のインタラクションを行う

Masa

I've uploaded the file. Have a look at it.

11:23pm

What time shall we meet tomorrow?

11:23pm

Thank you!!! Where shall we meet?

11:23pm

I can't find the file in the box....

11:24pm

We're supposed to meet at 10 a.m. Right?

11:24pm

Right. Thank you, Masa.

11:24pm

I've found it. I was looking at a different box.

11:24pm

I booked Room 303.

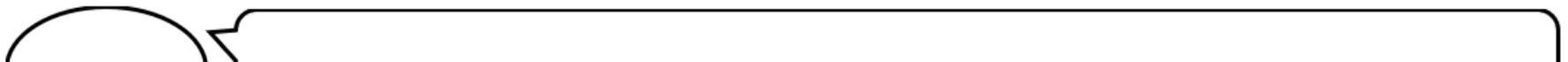
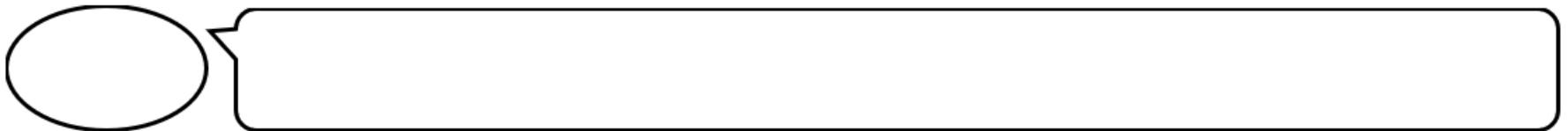
11:24pm

Written Interactionの体験

- 2～4人のグループ活動
- 1人1文ずつ書いていく
- (LINEのように) 前に書かれたメッセージを読んで、それに対して、自分のメッセージを加えていく
- 友人同士のSNSでのカジュアルなメッセージのやり取りを想定して、自由に書いていく
- 1グループで2トピックの同時展開 (シートを2枚使用)

Topic 1: Do you like ramen?

Topic 2: Let's go eat ramen after this.



Written Interaction、 体験してみてくださいか？

- （書くことが苦手な生徒も）自分が書いたことに対して、すぐに反応があるため、楽しみながら書ける（はず？）
- （書くことが苦手な生徒も）単発の文ではあるが、ちょっとした時間内で、3, 4文、あるいは、それ以上の文を書く練習ができる
- それまでに書かれた内容を読んで、それにどう反応するのがよいかを瞬時に判断するスキルが必要になる
（例）同意、反対、補足、提案、質問、…
- すぐに反応して書く必要があるため、自分にとって、すぐに使える言語材料（≡スタンバイ状態にある言語材料）が何であるかを把握できる機会になる

Writingに繋がるTeacher-student Interactionの体験

使用教科書

Crown English Communication I (三省堂)

Lesson 5, Part 4

Part 1-3は学習済み

本時の授業はPart 4

Part 4全体の流れをダイジェスト的に実演

(先生役：津久井先生)

Teacher-student Interaction、 体験してみてくださいどうか？

＜通常の授業の指導手順＞

1. Oral Introduction
2. Reading Comprehension
3. Explanation
4. Reading Aloud
5. Story Retelling
6. Writing

＜今回の授業の指導手順＞

1. Writing
2. Oral Interaction
3. Reading Comprehension
4. Explanation
5. Review What You Wrote
6. Reading Aloud
7. Writing

本文を読む前のライティング活動の可能性

Teacher-student Interaction、 体験してみてくださいどうか？

ライティングのテーマ:

Helping others is not easy.を1文目とした文章を書く

- 本文を読む前にも何とか書ける
- 自分の作文と本文を見比べながら、本文を読むことができる
- 本文を読んだ後に再度書くことで、内容が深まる

教科書本文

Cross-communication

topic sentence?

このパラグラフの micro genreは？

“Helping” others is not easy. Sometimes we send the

written message when we say, “Can I help you?” We

sometimes send the message,

“You need to change your attitude.”

think of it this way: “I see you have a flat tire on your

bike. I have some tools and patches here if you want

to fix it.”

from the Sumida River.

事例だが、過去形ではなく、現在形で一般論として書いている

比喩的な具体例

意見を述べているパラグラフだが、I agree / In my opinion / first / because などのマーカーはない

このパラグラフから、書くために、何を学べる？

生徒の作文例

Helping others is not easy. I have two reasons to support this opinion.

First, according to Mr. Mc Jilton who helps a lot of people in NGO, we may make people feel bad though we take actions to make people feel good.

Second, I think "to continue" is most difficult. For example, a lot of people will think like "I want to help people" and they will join volunteer groups or NGO. I think their motivations and powers of taking actions are so good and respectable, however, continueing those for a short time may mean nothing.

I can say **helping people is difficult** from those reasons.

Teacher-student Interaction

Direct
or
indirect?

Who?

Examples?

Helping others is not easy.

インタラクションを通して、

- プロンプトを分析し、お題を深掘りする
- 本文を理解させる
- 書いたものと本文を照合させる（「テキストの対話」を引き起こさせる）
- 2nd Writingでの修正ポイントを提示する